2026年10月15日　NO.148号

障害児・者サークル通信

発行：性教協★障害児・者サークル事務局
一般社団法人“人間と性”教育研究協議会（性教協）本部・事務局
〒151-0071　東京都渋谷区本町1丁目7番16号　初台ハイツ1006号
HP　https://shogaiji-sha.seikyokyo.org



《特集》夏のセミナー報告
●性教協全国夏期セミナーIN松本記念講演報告、分科会報告、参加者感想・・・・・・・・・・・・1
●堺セミナー報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
●全障研全国大会性教育分科会報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
●福井セミナー報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
●ここからCAFÉ報告、サークル学習会報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
●サークル学習会：寺部さん報告、岡野さん報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
●きいてきいて実践編・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
●お知らせ・・10

性教協第45回全国夏期セミナーin松本　記念講演８月２日（日）

「共に生きるとはなにか～分断と排除を超えていくために、いま必要なこと」フォトジャーナリスト　安田菜津紀さん

安田さんは、彼女が撮影した写真をスクリーンに大映しにしながら彼女の見たこと聞いたこと感じたことをそのまま私たちに届けてくださいました。その一枚一枚が言葉以上の力で私たちの感覚に直接訴えてきました。ガザに住む友が、自分の幼い子に帰る家がすっかり壊されてしまったことを理解してもらうために、家があったはずの場所に連れて行き親子でその荒涼としたがれきの山を茫然と見つめる写真。イスラエルの兵士たちがガザ地区の女性たちの下着を奪い、自分のからだに当てにやにやしている写真（この写真は彼らがふざけてSNSに投稿した写真だそうです）。イスラエル治安部隊は、ガザの不妊治療センターを標的に爆撃し、卵子や胚４０００個を破壊しました。パレスチナ人を根絶やしにする目的でイスラエルが行っている暴力です。

戦争になれば、人の尊厳をこうも簡単に踏みにじり平気でいられるものなのか。どんな理由であっても、人が人の命や暮らしを壊すことが許されるはずはない。パレスチナ・ガザ地区へのイスラエルによる侵攻での犠牲者の側から見えるこの現実を、これらの写真が私たちにぐさりと突き付けてきます。

安田さんが示した写真には、ガザの子どもたちが笑顔でたこを揚げたりお手紙を書いたりする写真もありました。それは、日本で東日本大震災が起こった２０１１年に、ガザの子どもたちが日本の人々のくらしの復興を願って取り組んだ活動の姿と同じでした。私も含め、多くの人が知らなかったガザの子どもたちやガザの人々の温かく優しい思いがそこにはありました。そんな彼らが今、他国からの暴力によって命も暮らしも脅かされている現実に、腹の底から怒りが湧き上がる感覚を覚えました。

しかし、特定の人間を人間扱いしないというこのありようは、決して海を隔てた遠くの国のことだけではありません。日本においても、朝鮮学校や外国からの技能実習生へのヘイトスピーチやヘイトクライムは根深く残っています。そこにはスリランカのウィシュマ・サンダマリさんのように入管によって引き起こされた人権侵害に象徴されるような、外国人差別と女性差別とを掛け合わされた暴力も見られます。安田さんの重い言葉を最後に置きます。「身近な差別とどう向き合うか。マジョリティの側こそ抗っていく必要がある」　（前田　恵美）